

(5) HIV 陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討

■ 研究分担者：樽井 正義(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

■ 研究協力者：生島 嗣(特定非営利活動法人ぶれいす東京)

徐 淑子(新潟県立看護大学)

田中 五八生(新潟ダルク)

林 神奈(サイモン・フレイザー大学)

山本 大(特定非営利活動法人アパリ、藤岡ダルク)

研究要旨

目的 HIV 陽性者と薬物使用者への生活上、医療上の問題に関わる支援策、感染と薬物使用の予防策を策定して実施し、効果を検討する。

方法 3年計画の2年目である本年度は、(1)文献調査と面接調査を踏まえて、薬物使用と感染症罹患とを予防する情報を必要とする対象集団を特定し、情報の伝達方法を検討した。(2)必要とされる情報を整理し、パンフレットを作成した。

結果 薬物使用と感染症罹患とを予防する情報を提供する対象集団は、前年度に行った文献調査と面接調査を踏まえ、情報提供の必要性と可能性を考慮して、薬物事犯保護観察対象者とした。パンフレットの内容は、感染症、感染予防、検査の基礎情報および相談と支援の窓口とした。

考察 薬物使用は chemsex と注射を介して感染症のリスクを伴うが、その危害を少なくする方策はほとんどなされていない。薬物使用者に感染症のリスクの情報を提供することは、ハーム・リダクションに含まれるもっとも基本的な方策である。

結論 薬物使用と感染症罹患とを予防する情報を提供する対象集団は、その必要性と可能性とを考慮して、薬物事犯保護観察対象者とし、感染症、感染予防、検査の基礎情報および相談と支援の窓口を内容とするパンフレットを作成した。

A 研究目的

HIV 陽性者と薬物使用者への生活上、医療上の問題に関わる支援策、感染(HIV、HBV、HCV)と薬物使用の予防策を、当事者と支援者への面接調査により策定して実施し、効果を検討する。薬物使用と感染を予防する情報は一般を対象に提供されているが、陽性者と使用者に必要とされる支援と予防の情報の提供は不足しており、情報を整理した資料を作成し、支援者の協力を得てその伝達方法を検討し実施する。

B 研究方法

3年計画の1年目(昨年度)に、(1)先行研究を調査し、薬物使用者と HIV 陽性者の現状(対象者概数、所在、状況等)を把握した。(2)薬物使用者と HIV 陽性者への支援提供者(エイズ治療拠点病院医療者、HIV 陽性者支援組織職員、薬物依存回復施設職員 各2名、薬物依存研究者1名)に面接調査を行い、薬物使用者と HIV 陽性者が直面している生活上、医療上の問題、感染と薬物使用の予防と支援の現状について情報を収集し、求められる情報とその提供可能性を検討した。

2年目には、(1)薬物使用と感染症罹患とを予防す

る情報の提供がとくに必要とされる対象集団を特定し、情報の伝達方法を検討した。また、(2)薬物使用に関連して注意すべき感染症とその予防策、使用に起因するさまざまな思いや問題を安心して相談できる窓口について、必要とされる情報を整理し、パンフレットを作成した。

3年目には、対象集団にパンフレットを配布し、対象者とその支援者への面接調査を通じて情報提供の効果について検討する。

C 研究結果

薬物使用と感染症罹患とを予防する情報提供の対象集団は、前年度に行った文献調査と面接調査とを踏まえ、情報提供の必要性と可能性を考慮して、薬物事犯保護観察対象者とし、パンフレットの内容は、感染症、感染予防、検査の基礎情報および相談と支援の窓口とした。

(1) 対象者と情報提供の方法 薬物使用者には、感染症の罹患リスクがあり、健康危害を少なくするために、疾患とその予防に関する情報が必要とされていることが確認された。しかし、薬物使用はもっぱら犯罪と見なされているため、使用者は逮捕や社会的非難を恐れて身を隠さざるをえないので、使用者を特定して情報を届けることは容易ではなく、その方法に工夫が求められる。

そこで、情報を届けることが可能な使用者のグループとして、薬物事犯保護観察対象者を本研究の対象者とした。精神保健福祉センターを通じて保護観察対象者の転帰を定期的に(3年間で8回)電話で調査し、地域資源への連携促進プログラムの構築を目指す「声の架け橋プロジェクト(Voice Bridges Project)」(国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所薬物依存研究部、松本俊彦部長)⁽¹⁾の協力を得て、保護観察所におけるプロジェクトへの参加者募集の際に、本研究で作成する情報パンフレットを配布することを依頼した。

(2) 提供する情報 薬物使用に関連する感染症についての基礎情報と相談と支援の窓口を紹介する情報を、A4表裏にまとめたパンフレットを作成した。

表面は「知っていただきたい感染症があります」という表題のもとに、とくに気をつけたい感染症として

HIV感染症、B型肝炎、C型肝炎を挙げ、感染経路、予防法、検査機関、治療の現状、感染症に関わる情報のウェブサイトを紹介した。

裏面は「安心して話せるところ、困りごとを相談できるところがあります」という表題のもとに、NGOによる相談窓口、自助グループNA、回復支援施設ダルク、行政による相談窓口(精神保健福祉センター)、薬物使用に関わる支援情報のウェブサイトを紹介した(別紙)。

D 考察

(1) 本研究の意義 薬物使用には、chemsexと注射を介して感染症のリスクが伴うので、感染予防の対策が求められる。実際、たとえばC型肝炎ウイルス(hepatitis C virus: HCV)抗体の陽性率は日本の社会全体では1~2%とされているが、2015年に実施された薬物事犯者調査によれば、C型肝炎罹患経験は46%と極めて高い⁽²⁾。しかしこれまでのところ、この健康危害を少なくする方策(harm reduction)はほとんどなされていない。ハーム・リダクションという言葉からは注射針・注射器交換やメサドン代替療法が連想されるが、それだけではなく、それ以前により基本的な方策として、情報提供、教育、相談(information, education and counseling)が求められる。本研究は、対象者数は多くはないが、アウトリーチ可能な集団に情報を提供する試みである。

(2) 本研究の限界 薬物を使用している人はおよそ20万人⁽³⁾と推測されるが、その所在は知られていない。僅かに知られている集団の一つは刑事施設に収容されている人であり、施設内では使用が止められているが、出所後に再使用は起こりえる。覚醒剤取締法違反の場合、同一罪名再犯者率(検挙人員に占める再犯者の比率)は70.1%であり、刑法犯全体の49.1%に比して高い⁽⁴⁾。Voice Bridges Projectに参加した薬物事犯保護観察対象者の場合は、違法薬物再使用率は低く、1年後で3.2%、3年後で7.9%、つまり累積断薬継続率は高く、1年後で約90%、3年後で約80%であった⁽⁵⁾。したがって、このプロジェクトには使用と感染の予防においても一定の効果が認められ、その協力のもとで実施される本研究の効果は限られたものとなる。情報提供はこのプロジェクトに参加

しない保護観察対象者にも行われる。

E 結論

薬物使用と感染症罹患とを予防する情報を提供する対象集団は、その必要性和実施可能性とを考慮して薬物事犯保護観察対象者とし、感染症、感染予防、検査の基礎情報および相談と支援の窓口情報を内容とするパンフレットを作成した。

< 引用文献 >

(1) 松本俊彦, 保護観察所—保護観察所と精神保健福祉センターが連携した新しい薬物依存症地域支援システム—。精神科治療学 36. 7. 2021.7.

(2) 法務総合研究所, 薬物事犯者に関する研究, 研究部報告 62, 2020.

https://www.moj.go.jp/housouken/housouken03_00025.html

(3) 樽井正義, 薬物使用者の状況と求められる情報, HIV 陽性者と薬物使用者, HIV 陽性者と薬物使用者への支援策と感染・薬物使用予防策の検討, 2022, 厚生労働省エイズ対策政策研究事業, 地域における MSM の HIV 感染・薬物使用予防策と支援策の研究(研究代表者: 樽井正義)分担研究,

https://chiiki-shien.jp/admin/wp-content/uploads/R03hokoku_05.pdf

嶋根拓也, 薬物使用に関する全国住民調査(通称: 飲酒・喫煙・くすりの使用についてのアンケート調査第 13 回), 2020. 厚生労働行政推進調査事業費補助金(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究(研究代表者: 嶋根拓也)分担研究.

https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/J_NGPS_2019.pdf

(4) 令和 3 年版犯罪白書, 2022, <https://www.moj.go.jp/content/001365734.pdf>

(5) 松本俊彦, 保護観察の対象となった薬物依存症者のコホート調査システムの開発とその転帰に関する研究. 厚生労働科学研究費補助金障害者政策総合研究事業, 再犯防止推進計画における薬物依存症者の地域支援を推進するための政策研究(研究代表者: 松

本俊彦)分担研究. https://www.ncnp.go.jp/nimh/yakubutsu/report/pdf/2022_0221_R2-2.pdf

F 研究発表

なし

G 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

知っていただきたい 感染症があります。

薬物使用に関連してとくに気をつけたいのは、HIV感染症とB型肝炎、C型肝炎です。
感染して重症化すれば、HIVは肺炎などの感染症や悪性腫瘍などを起こし、
肝炎は肝硬変から肝がんに進み、ともに生命に関わることもあります。

どのように 感染するのか

- ① 薬物を注射で使用するとき、他の人が使った注射器・注射針を使うと、
- ② 薬物を使用してセックスするとき、コンドームの着用がおろそかになると、他の人の血液・体液に含まれる原因ウイルス（HIV、HBV、HCV）が自分の体のなかに入り、感染することがあります。

どうしたら 感染を防げるのか

- ① 他の人が使った注射器・注射針を使わない、注射をしない、
- ② 必ずコンドームを使う、これをお勧めします。

治療の進歩

B型肝炎ではウイルスが増えるのを抑えることができます。

C型肝炎ではウイルスを体内からほとんどなくすることができます。

HIV感染症ではウイルスが増えて発症するのを抑え、きちんと治療を続けていればセックスで感染させることはありません。

感染しているかいないか、 どうしたらわかるのか

感染しても気づかないことがあるので、検査を受けることをお勧めします。早期に感染が分かれば、治療を受けることができます。感染してないと分かれば安心し、気をつけることができます。

HIV検査は、全国の保健所や自治体の特設検査施設で、無料・匿名で受けられます。

HIV検査・相談マップ

<https://www.hivkensa.com>

「B型肝炎」「C型肝炎」、また「梅毒」の検査施設も、キーワード検索できます。

感染症と治療の情報

HIVマップ <https://hiv-map.net>

HIV／エイズガイド

HIVポジティブを支える社会制度

なるほどB型肝炎 <https://hbv-pt.jp>

B型肝炎とは 医療費助成について

C型肝炎サポートネット

<https://cgatakanen-support.net>

C型肝炎とは 医療費助成が受けられます

制作：令和3～5年度厚生労働科学研究費補助金

（エイズ対策政策研究事業）

地域におけるMSMのHIV感染・薬物使用予防策と支援策の研究

（代表：樽井正義）

地域におけるHIV陽性者等支援のためのウェブサイト

<https://www.chiiki-shien.jp>

問い合わせ先：特定非営利活動法人ぶれいす東京 研究・研修部門

research-office@ptokyo.org

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場4-11-5 三幸ハイツ403

発行：2023年2月

安心して話せるところ、 困りごとを相談できるところがあります。

薬物に関わることは一人の手には余るのに、なによりも人には話しにくい、
また、人はそれぞれですから、あうこと、あわないこともあるでしょう。
しかし、とじこもらず、話をしてみることをお勧めします。

NPOによる相談

OKチャット <https://hrtokyo.net/okchat>
クスリ・ドラッグ・薬物を使うことがある、と安心して
話せるチャットです。
LINE・ツイッター・テレグラムで対応
月・火・木・金 14:00～18:00

ふれいす東京 <http://ptokyo.org>
HIVとセクシュアルヘルスに取り組むNGOです。
HIV陽性者専用 ☎ 0120-02-8341
月～土 13:00～19:00
事務所 ☎ 03-3361-8964 月～土 12:00～19:00

自助グループ

ナルコティクスアノニマス日本
地域に根ざした当事者によるミーティングを、全国で
200以上のグループが毎週行っています。メンバーに求
められるのは、使うのを止めたいという願望だけです。
全国NAミーティングリスト
http://najapan.org/pdf/NALIST_J.pdf

回復支援施設

ダルク
薬物からの回復を支援するプログラム（入所・通所）を、
全国約70の施設が独自に行っています。
日本全国のマック/ダルク所在地 日本ダルク
<http://darc-ic.com/darc-list>
施設一覧 日本カトリック依存症者のための会
<http://jcca-catholic.jp/shisetsu.html>

ダルクマッチングサポート アパリ
6つのダルクの中から最適の受け入れ先を紹介します。
<https://apari.or.jp/matching>
☎ 03-5925-8848 月～土 9:30～17:00
info@apari.or.jp

ダルク女性ハウス

女性専用施設です。
<http://womensdarc.org>
☎ 03-3822-7658 月～金 10:30～16:00

行政による相談

都道府県と指定都市の精神保健福祉センターで、薬物
使用について相談できます。
全国の精神保健福祉センター一覧
<https://www.zmhwc.jp/centerlist.html>

情報サイト

ASK
アルコール、依存性薬物、様々な依存関連問題の予防
<https://www.ask.or.jp>

HIVマップ
こころのケア・薬物・アルコール
<https://www.hiv-map.net/navi/mental-care>

Futures JAPAN
ドラッグ（薬物）を使用している人へ
<https://futures-japan.jp/pickup/>ドラッグ（薬物）を
使用している人へ

Stay Healthy and be Happy
身近な人から薬物使用について相談されたら
<https://stayhealthy.tokyo>

PrEP in JAPAN
プレップ（HIV予防内服）について
<https://prep.ptokyo.org>